令和２年度第１回北九州市立図書館協議会　会議録

1　会議名　令和２年度第１回北九州市立図書館協議会

2　議題　①　図書館年報（令和２年）について
　　②　令和元年度　北九州市立図書館の運営に関する評価について
　　③　その他

3　開催日時　令和２年１０月２日（金）　１３時３０分～１５時００分

4　開催場所　北九州市立小倉南図書館３階セミナー室

5　出席者氏名

（1）委員（会長他１１名、欠席委員３名）

北九州市立大学図書館長	中尾　泰士
北九州市学校図書館協議会副会長	上満　佳子
北九州市学校図書館協議会会長	本田　壽志
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	児玉　幸子
北九州市私立幼稚園連盟理事	村端　ひとみ
北九州市ＰＴＡ協議会副会長	大庭　里美
公募委員	原田　多賀子
公募委員	嶋村　加代子
北九州市社会教育委員	宮本　和代
北九州市婦人団体協議会委員	黒田　美奈子
北九州児童文化連盟理事	柴原　佳代子
北九州青年会議所監事	鶴田　雅美

（2）事務局（中央図書館長他３名）

中央図書館長	小坪　正夫
中央図書館庶務課長	山口　奈穂子
中央図書館奉仕課長	福田　淳司
中央図書館子ども図書館長	河村　信孝

6　傍聴者　１名

7　会議次第

議事（報告、質疑応答）

8　会議経過（発言内容要旨）

（1）　議事

①　図書館年報（令和２年）について

「図書館年報（令和２年）」について、事務局から説明。

（委員）

意見なし

②　令和元年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

「令和元年度　北九州市立図書館の運営に関する評価」について、事務局から説明。

『令和元年度　北九州市立図書館の運営に関する評価』について

視点１「多様な施設とつながる図書館」について

（委員）

視点１－方向性（１）－具体的取組①の新たな試みで子ども図書館の情報発信があると思うが、具体的にはどのようなものか。

（事務局）

美術館分館の企画展「にじいろのさかな原画展」では子ども図書館で読み聞かせを行った後に美術館を見に行くといったような組み合わせをして両方を体験するようなイベントを行った。

また、展覧会のチラシや図録を図書館に置く等の連携はこれまでもあったが、漫画ミュージアムの企画展「やなせたかしの遊べる絵本展」では漫画ミュージアムとコラボして読み聞かせを行った。このような事例が子ども図書館が出来たことで新たに始めた情報発信の仕方である。

（委員）

全体的な評価のやり方について質問する。項目があり、ＡやＢといった評価があり、評価の基準の説明があるため非常に分かりやすい。昨年度に比べると内部評価がＢだったものがＡに上がったり、ＣだったものがＢに上がったり比較的良い方向に上がっている。

しかし、視点１の全体的な内部評価が相変わらず、Ｂなのはなぜなのか。どうしたらＡになるのか。

（事務局）

内部評価の項目がＡよりＢの数が多いとＢ評価になってしまう。「視点１の多様な施設とつながる図書館」については、今までにないやり方を工夫して子ども図書館が頑張ったのでＡに

したいという気持ちはあった。しかし、冷静に全体を見るとまだＢの方が多いため、今後、頑張らないといけないということでＢにとどめた。

視点２「市民の課題解決を支援する図書館」について

（委員）
視点２－方向性（１）－具体的取組②に出てくるパスファインダーを作成したのはどの図書館なのか。

（事務局）
パスファインダーを作成しているのは小倉南図書館と子ども図書館である。

（委員）
大変だとは思うが、市民にも職員にも便利なとても良いものなので、他の図書館においてもこれから整備を進めて欲しい。

（委員）
関連してお尋ねだが、研修で学んだことを生かしてパスファインダーを作成とあるが、この研修は、小倉南図書館独自の研修だったのか。

（事務局）
研修は福岡県立図書館主催のメニューや中央図書館主催のレファレンス研修等があり、その中で学んだものを各地区館で生かしている。小倉南図書館と子ども図書館についてはパスファインダーを作成したが、他の地区館はまだそこには至っていないということだ。

（委員）
全館が研修対象ということは、パスファインダーの作成は全館で可能ということか。

（事務局）
作成は可能であるが、労力と時間を要するので、どうしても館によってばらつきが出てしまう。

（委員）
視点２－方向性（２）－具体的取組⑤の内部評価がＢになっているが、年報の２８、２９ページを見ると各館が特性を生かし、さまざまなユニークな取組みをしているので、Ａ評価で良いのではないか。
年報の２８、２９ページを見るとそれぞれの館が生き生きと活動している様子が見えてくる。

これをもっと分かりやすくＰＲしてはどうか。

（委員）
先程の意見に大賛成する。視点２－方向性（２）－具体的取組⑤を見ると、それぞれの地域の特性を生かした取り組みがなされている。高齢者が多い地域では高齢者向きの、子育て世代が多い地域では子育て向きの取り組みを行っている。一番すごいなと思ったのは、大きな病院に隣接する図書館が、病院に定期的に入院中の子ども達を訪問して読み聞かせを行っていることである。
引続き、郷土のことが次の具体的取組⑥に出てくるが、５市合併した北九州市の歴史と文化を踏まえると、この内部評価はＡで良いし、⑤についてもＡに値すると思う。

（委員）
視点２－方向性（２）－具体的取組④にある通り、子ども図書館が引続き色々なコーナーを設けたことに感心した。子ども図書館及び地区館・分館に子育て支援コーナーを設置するなど環境を整えたことについて、もう少し詳しく話を聞きたい。

（事務局）
子ども図書館は開館当初からここに記載のある各コーナーを設置している。常設もあれば季節ごとに変えることもある。こうした取り組みを館長会議で共有したり、各館の取組状況の良いところを取り入れてやっている。
ただ、現在コロナ禍のため展示などは出来るが、子どもの活動を生かした取り組みが出来ていない状況で、通常通りの開館状況ではない。昨年度と比べて、と言うことは難しいが、状況を見ながら、取り組めるところは地区館とも連携してやって行きたい。

（委員）
いつまでコロナ禍が続くか分からないが、コロナで新しい発見が出来たというような取り組みをやって欲しい。非常に良いコーナーを作っているので、若いお母さんたちには感謝されていると思う。

（委員）
視点２－方向性（２）－具体的取組⑥は、なぜ前年度Ａ評価から今年度はＢ評価に下がったのか。

（事務局）
具体的な評価に先立ち、評価の基準について説明しているページを見てもらいたい。Ｂは「継続的･安定的に取り組みが行われたり、数値が一定水準で維持されたりするなど、順調なもの。」とある通り、新しく何か大きく変わったというものがなく、現状維持に近いものがＢとなる。視点２－方向性（２）－具体的取組⑥の郷土資料の充実については、前年度は子ども図書館の

開館があり、シビックプライドコーナーを新しく作ったという大きな変化があったのでＡだったが、今年度は安定的にやっているということでＢになることをご理解いただきたい。

（委員）
ただ、現在あるものを継続するということも非常に難しいことである。あるものを失くさないよう継続的に努力することもＡに値するのではないかと思う。働いている人たちが「私たちの頑張りが生かされている。」と思うような評価が表現されると良いのにと思う。

（委員）
評価変更の提案があったが、視点２－方向性（２）－具体的取組⑤をＡとすることに図書館としての考えは。

（事務局）
私たちはやはり上を目指さないといけないので、ちょっと謙遜したところがある。今皆さんに背中を押していただき、また委員からの意見にもあったように、私たちが頑張ったことは評価されているのだ、という見せ方も現場のモチベーションにもつながるということで、Ａに修正させていただきたい。

（委員）
では、視点２－方向性（２）－具体的取組⑤はＡ評価に修正するということにする。⑥は変更なしで良いのか。

（委員）
もともとの評価基準をもっと分かりやすく出来ると良いかもしれない。評価基準そのものの説明の変更も検討してはどうか。何も分からない私たちにとっては、どうしても「ＡがＢになった。ＢがＡになった。」という字の先入観で判断してしまいそうになる。どうしてそうなったのかという説明をもう少し詳しくするなど分かりやすくする方法もあるのではないかと思う。

（委員）
視点２－方向性（２）－具体的取組⑥の中に、「はじめての絵本事業」の話が出てくる。この事業は、９９％実施されているのに、ここの評価がＡではなくＢなのは、ちょっと納得できない。順調であるというのは普通なので、努力している点でＡがつけば職員がより頑張ろうという気持ちにもなる。その辺りも加味した評価をお願いしたい。

（事務局）
「はじめての絵本事業」は随分前から実施している事業である。配布の仕方を変えて、母子手帳と一緒に渡すことにより実施率９９％という高い水準を維持している。
一方、子どもが成長して小学生・中学生になった時のいわゆる「不読率」は北九州市では十

分に解消されていない現実がある。これを解消するには、やはり小さい頃からしっかり読み聞かせが必要という意見をいただいている。ただ、本を配れば良いという考え方ではなく、配った後の読み聞かせの仕方や動画を配信する等の取り組みを現在改定中の「子ども読書プラン」に盛り込もうとしている。こういった点でまだ伸びしろがあると考え、Ｂにしたという経緯がある。

（委員）
　それでは、視点２－方向性（２）－具体的取組⑤はＡ評価に変更、⑥はＢ評価のままとする。評価基準については、ずっと数値が伸びている状態をＡと定義するだけでなく、高い水準で維持できているものもＡ評価の対象となるように改めると、結果的に現場のモチベーションを上げるような評価が可能になると思われるので、今後ご検討いただきたい。

視点３「子どもの読書活動を積極的に推進する図書館」について

（委員）
　子ども図書館について、コロナ禍で見えてきた課題があれば教えて欲しい。

（事務局）
　昨年度末まで教員だったが、図書館と学校の連携が弱く、まだ伸びしろがあると感じている。学校と連携を図ることや家庭にも気を配ることを課題としている。

（委員）
　本校では小倉城でフィールドワークを行うが、その際に１年生全員が読書通帳を作る。これをきっかけに子どもたちが図書館に足を運べば良いなと思っている。それをまず自分が在校する中学校から始めて、小倉城周辺の中学校に広げていってはどうかと考えている。

（委員）
　子どもたちの住んでいる校区に公立図書館がないところが沢山ある。本屋も少ないため、インターネットのアマゾンなどで検索して、自分に興味のある本しか読んでいない子どもが沢山いる。子どもたちが系統立てて本を読めるよう育成するために、国語科の教科書では本の配架についても知ることが出来るような学習内容に変わっている。中央図書館と長く付き合っていける子ども達を育成するために少しずつ努力していきたいと思っている。

（委員）
　私も現在、学校図書館と公共図書館がどのように連携していけば良いか悩んでいる。
　今、中央図書館に子どもたちの読書活動の成果を展示している。これは平成２５年度から始めた取り組みで、一通り達成出来たためその次を考えたいが、なかなか具体的な案が出ないの

で、公共図書館の力を借りたい。もう少し密に、また定期的に公共図書館の司書と情報交換出来たらと思う。お互いに力を貸し借り出来る場が欲しい。

（事務局）

課題という事で話が出たが、今、学校図書館職員が各中学校区に１人いて、その方を中心に活動していただいているが、ここ５、６年、いや７、８年で随分、学校の図書館が変わった。明るい、そして子どもたちが興味を持つ環境にしてくれた。

ハード面は非常に整備が整ってきたが、本の面白さ・楽しさについては、まだまだ子どもたちに掘り下げることが出来ると思う。そこをいかに公共図書館と学校図書館が連携をしてやって行くかというところで、子ども図書館だけがやるのではなく、図書館職員だけがやるのでもなく、児童・生徒を巻き込んで何かイベントを打つなどをやって行く、それを学校に発信するのが私どもの務めだと考えている。

（事務局）

子どもたちに直接というわけではないが、コロナ禍の中で何か子どもたちの未来に繋がる話があれば・・・という話が出たので八幡図書館の取り組みを紹介する。

今年、小学校では教科書の選定替えがあったが、八幡図書館ではコロナ禍でのテレワーク中に司書が在宅で情報収集し、国語の単元の発展学習に役立つよう同じ作者の別の本を紹介したり、視野が広がる関連図書を紹介したりする一覧表を１年生から６年生まで作成した。指導部の方にも見てもらったが大変役立つ素晴らしい内容とのことだった。この一覧表に掲載されている図書は全て市内の公共図書館に蔵書がある裏付けまで取ってある。もともと教員の利用を想定した一覧表だったが、興味のある子どももいるかもしれないので、八幡図書館のホームページに掲載してもらうこととした。皆さんも是非ホームページを見て欲しい。

小さいことでも学校と公共図書館で情報交換していけば、何か次の一歩を生むということを考えさせられた事例だったので、今後も、子ども図書館や地区館と連携してそういうことをやって行きたいと思っている。

（委員）

子ども達に本と向き合ってもらうためには、子どもの身近にある学校図書館の充実が一番大切である。公共図書館は規模が大きく、小学校の見学を受け入れると子ども達は大喜びするのに、なぜかその後の利用に続かない。親の温度差や立地条件の差が大きな理由だと思われる。

また、大人は子どもに本を渡したいと強く考えているのになかなか振り向いてもらえない。子どもは習い事などで正直忙しいという面もあるし、本が沢山あると威圧感を感じる子どももいたりする。でも今は、各図書館が工夫をして子ども達が本を手に取りたくなるような工夫をしている。

図書館は無料で本が借りられ、家の中が本でいっぱいにならないようなメリットもある。図書館のメリットをもっと大きく発信する必要があるのでないか。

（委員）
小さな子どもをかかえて働いているお母さんはいつも忙しく子どもを迎えに来る、家に帰れば食事の準備をする、子どもを早く寝かしつけねばならないという生活をしている。
お母さんも子どもも忙しいが、遊びに付き合うのとは違い、絵本は５分もあれば読めるというのが強みである。

視点４「誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館」について

（委員）
最初の総合評価の中に「外国人市民の生の声を聞いた」とあるが、何をしたのか教えて欲しい。

（事務局）
主催事業の中で聞き取り調査を行った。どういったサービスや図書が必要かを聞いた。
また、外国人が集まる日本語教室６箇所全部を回って聞き取り調査を行い、６９名から回答を得た中で、今後進めていくサービスや収集する資料を詳細に聞いて、事業を始めたところである。

（委員）
今、地域には多くの外国人が住んでいる。言葉は違っても本を見ることで何か共通の話題が入ってくるのではないかと思う。特に市民センターにはひまわり文庫もある。外国の方も日本に住んで文化が違い、色々と不安なことがあると思うが、コロナを怖がらずに、色んな方と接点を持ってやって行くことはとても良い事業だと思う。ぜひこれからも進めて行っていただきたい。

（委員）
これは項目のうち５つがＡ評価で全体がＡになったということだろうか。視点４－方向性（１）－具体的取組③が相変わらずＣのままだが、ここがＣであっても視点全体の評価はＡということで良いか。

（事務局）
先ほど委員からもご指摘があったとおり、外国人市民や障害がある方へのサービスについては、かねてから図書館協議会の皆さんからも考えて欲しいと言われていた。これを昨年度は行動に移せたということで「太字のＡ」でも良いかな？と思っているところである。そのため、１つＣがあっても視点全体に対する評価はＡにさせていただいている。

（事務局）
視点４－方向性（１）－具体的取組③については、昨年度はデジタル資料の選定方法等をいのちのたび博物館の学芸員や国立国会図書館に聞き取りをしたが、具体的に事業が進まなかったのでＣという評価にした。これからは特に貴重な郷土資料のデジタル化に取り組みたい。時間と労力がかかるのですぐには出来ないが少しずつやって行きたいと思っている。

（委員）
この作業は専門的知識が必要なのか。それとも単純に人を集めれば出来るのか。

（事務局）
特に専門的知識がいる訳ではない。スキャナーを購入し、取り込むという作業を検討している。

（委員）
退職した方など、このようなことに貢献したいという方もいそうなので、ボランティアの募集等をかければ費用面は抑えられそうだがどうか。

（事務局）
先ずは職員が取り組む予定だが、かなり人手がかかるようであればボランティアの方に手伝ってもらうことも検討する。

（委員）
昨年度に情報発信力ということでお願いしていたが、視点４－方向性（１）－具体的取組②の個別ホームページの構築に取り組んでいただいたことを評価したい。以前はホームページのどこを見たら良いのか分からないという発信力の弱さがあったので、これは頑張っていただいたなと率直に評価したい。

視点５「市民参画型図書館」について

（委員）
視点５－方向性（１）－具体的取組③にあるブックヘルパー研修は、令和元年度からスタートしたが、ブックヘルパーの方に好評だった。ただ、会場の収容能力の関係も有って、全員が参加出来なかったことは残念であった。
参加した方は他校のブックヘルパーの図書館づくり、本の配架などを実際に見て刺激を受けて更にモチベーションが上がり自校で活動をしていたので、成果があると思った。一方で、発表担当となった方は、確かに大きな刺激を得たものの、発表資料作成のための負担も大きかったようだ。今後の研修のあり方を検討する上での課題としていただければと思う。

また、以前は学校図書館を見学する取組みもあったが、今は立ち消えになってしまった。地域の多くの方に学校図書館を見ていただくことも大きな意味を持つと思うので、１１月前半にある学校開放週間の活用についても検討いただきたい。

③ その他

ア　新型コロナウイルス感染症の感染拡大にかかる図書館の対応について

イ　八幡図書館折尾分館の仮移転と新規整備の進捗状況について

ウ　門司港地域複合公共施設整備の進捗状況について

事務局から説明。

（委員）

意見なし